

特 記 仕 様 書

本工事を進めるにあたり、以下の事項を厳守してください。但し、監督員が認める場合はこの限りではありません。

- 1 着工にあたり、地元区長、土地改良区等、関係機関と事前協議を行うこと。
- 2 地元、隣接する地権者等に対しては、誠意をもって対応し、トラブルのないように進めること。
また、現場に従事する全作業員にも、新規入場者教育等を通じて徹底させること。
- 3 地元説明用資料(工程他)については、契約後速やかに作成し、遅くとも工事着手予定日の1週間程度前には、工事の旨を関係者に周知すること。
- 4 施工計画書、各段階における施工協議書、80%出来形図等の各種提出書類は、それぞれの提出時期において速やかに提出すること。
- 5 通行制限願申請書及び道路使用許可申請書は、申請時期の2週間前までに提出をすること。
また、工程の遅れ等により期間を延長する際にも、期限前2週間前までに手続きを済ませること。
- 6 施工段階における変更事項・協議事項は、内容の如何に関わらず、必ず発注者と事前協議を行うこと。受注者独自の判断により協議を行わないで工事を進め、事後協議により変更を願い出る場合は、原則として認可しないこととする。(施工の手直しを指示することもある)
- 7 コスト縮減への提案・取組み、環境問題への取組み(建設廃棄物の発生抑制、再生利用等減量化)に努めること。
- 8 建設副産物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき適正処理が図られること。
また、最終引受場所、適正処理を証明する書類及び処分量について報告すること。
なお、廃棄物の運搬にあたっては飛散防止策を講じること。
- 9 建設副産物発生量・再使用量の報告については、長野県の「建設副産物実態調査」の様式である「再生資源利用[促進](計画・実施)書」により提出すること。
- 10 その他共通事項については、最新の、土木工事現場必携、土木工事共通仕様書ほか基準図書に従って進めること。
- 11 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
受注者は、保険契約の証券又はこれに代わるものを監督員に提示することとする。
- 12 本工事は発注者指定型週休2日工事の対象工事であり、「中野市週休2日工事実施要領」に従い取り組むものとする。
- 13 本工事は、長丘地区消雪施設における長丘4号井の井戸能力を回復することを目的としている。
同施設の取水能力の回復を図り、維持管理を行う上の基礎資料をまとめた報告書を作成する。

14 工事内容は次に示すとおりとする。

①揚水設備撤去工

既設の水中モータポンプおよび揚水管等の撤去を行う。作業にはクレーン付トラックを使用して、落下事故等のないよう十分注意して行う。

②井戸内洗浄（ブラッシング洗浄工）

井戸内径以上のホイルブラシを井戸内で上下運動することにより、井戸管内面の付着物を除去する。

ブラッシング前後に井戸深度を測定し、剥離スケールの堆積厚を確認する。

ブラッシング洗浄時に井戸内から著しく砂利が揚がる場合は、井戸管の破損等が生じている可能性があるため、改修を中断し、監督員と作業実施の可否について協議するものとする。

③井戸内洗浄（ベ어링洗浄工）

先端に逆止弁を設けた筒状のベアラを井内に降下させ、浮遊するスケールや細粒分を伴った地下水を採取・排出する。なお、ブラッシング洗浄により、井戸管に破損箇所があると判断された場合、本工法により充填砂利を井戸内に引き込む恐れがあるため、監督員と作業実施の可否について協議する。

④井戸内洗浄（スワビング洗浄工）

端に密封性のある樹脂等を取り付けたサージプランジャーを井内へ降下した後、ウインチの巻上により地下水を帯水層から井内へ強制誘導することにより、充填砂利間隙内の微細粒子による目詰まりを動かし、「みずみち」を再生する。なお、ブラッシング洗浄により、井戸管に破損箇所があると判断された場合、本工法により充填砂利を井戸内に引き込んでしまう恐れがあるため、監督員と作業実施の可否について協議するものとする。

⑤井戸内洗浄（エアールフト浚渫）

井戸内にフロー管を設置して空気を送り込むことで、空気の力で水と井底埋没物を井戸外に排出する。前後で井戸の深度を測定し、埋没物の有無および種類と、施工による除去状況を報告書に記載する。

⑥水中テレビカメラ調査

井戸ケーシング内付着物の状況や、スクリーン及びケーシングパイプの溶接箇所（接続部）の確認、腐食状況及び破損箇所等の有無を調べるため、井戸内全周撮影型を入れて調査を行う。

作業時には発電機等の仮設電源を使用する。

水中テレビカメラは直視（井戸を上から下を見たときに出る映像）用及び側視（井戸側面の映像）用カメラが内蔵されており、地上でのリモートコントロールによる操作で、切り替えながら井戸の状態を調査するとともに、HDレコーダーに記録を保存する。

⑦揚水試験

改修後の井戸の取水能力を把握するため、段階揚水試験・連続揚水試験・水位回復試験を実施する。

揚水試験の内容は以下の通り行う。

段階揚水試験の揚水量は、事前に予備揚水の結果から決定する。

試験は5～6段階とし、各段階における揚水時間は1時間とする。

段階揚水試験中は10分間隔で井戸水位の測定を行う。

連続揚水試験は、段階揚水試験の結果得られた限界揚水量で8時間連続揚水を行うものとする。

揚水試験時の水位観測間隔は、以下のように行う。

揚水開始後

1分 ～ 10分	1分間隔
10分 ～ 20分	2分間隔
20分 ～ 60分	5分間隔
60分 ～ 300分	30分間隔
300分以降	60分間隔

連続揚水試験後の地下水位回復状況を把握するため、揚水終了後1時間は地下水位の観測を行うものとする。観測間隔は連続揚水試験に順ずる。

⑧水質分析

連続揚水試験の開始より6時間程度を経過後の地下水を採取し、水質分析を行う。

分析項目は原水40項目とPFASとする。

⑨配管復旧および試運転調整

各種配管復旧および試運転調整を行う。

井戸の揚水量は揚水試験により判定された適正揚水量にて行うものとする。

⑩報告書作成

本工事によって得られた井戸情報(改修中の状況、井戸の揚水能力、改修工事の効果)、考察(井戸維持管理計画やその留意点)などについて整理した報告書を作成する。

報告書は以下の内容が記載されているものとする。

- ・井戸の概要と過去の工事履歴
- ・本工事における施工内容および施工結果
- ・考察(井戸維持管理計画やその留意点)
- ・水中テレビカメラ観察記録表および映像(DVD)
- ・揚水試験結果表およびQ-s曲線図